



＊ 研究会報告 ＊

「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社班 2022 年度第 2 回研究会

「アジア太平洋戦争下、東南アジアに建てられた海外神社—旧蘭領東印度（現インドネシア共和国）を中心に—」

日 時：2022 年 9 月 17 日（土）13:00～15:00

開催方法：ハイフレックス（班メンバーはみなとみらいキャンパス 3011 教室、一般参加は Zoom）

報告者：中島 三千男（神奈川大学 名誉教授、非文字資料研究センター 客員研究員）

加藤 里織（日本常民文化研究所 特別研究員）

はじめに

2022 年 9 月 17 日（土）13 時から、「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社班（以下、海外神社班）の 2022 年度第 2 回研究会が開催された。新型コロナウイルス感染症の新規感染者数減少により世間は少し落ち着き始めていた時期であったが、引き続き感染拡大防止対策を行うという観点から、対面と Zoom を用いたオンライン併用での開催となった。当日は、海外神社班メンバーは神奈川大学みなとみらいキャンパス（MMC3011 教室）にての対面で、また、それ以外の参加者は Zoom での参加となった。参加者数は、会場（班メンバー）と Zoom（一般参加者）を合わせて約 50 名であった。

第 2 回研究会発表者は、海外神社班の立ち上げから関わっている中島三千男氏である。発表の具体的な内容については、今後、論文としてまとめられたものが刊行予定ということなので、本稿では、研究会の概要と参加者から出された質疑応答を中心に報告する。

1、研究会概要

第 2 回研究会は、「アジア太平洋戦争下、東南アジアに建てられた海外神社—旧蘭領東印度（現インドネシア共和国）を中心に—」という題目で、1942 年から 1945 年にかけて日本が占領していた旧蘭領東印度つまり現在のインドネシア共和国（以下、蘭印）に建てられた神社についての発表であった。

蘭印の海外神社については、非文字資料研究センター共同研究第四期（2017-2019 年度）「近代沖縄における祭祀再編と神社」班の時に、旧「海外神社跡地のその後」班のメンバーである中島三千男氏、津田良樹氏、稲宮康人氏が調査を行っている^(註1)。今回の発表は、この調査以降に中島氏によって進められた研究成果についてのものである。

神奈川大学 非文字資料研究センター 「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社班 2022 年度第 2 回研究会
アジア太平洋戦争下、東南アジアに建てられた海外神社—旧蘭領東印度（現インドネシア共和国）を中心に—

報告 中島三千男
(神奈川大学名誉教授、非文字資料研究センター客員研究員)

海外神社研究は 1990 年代以降、急速に進展してきたが、その中で唯一、空白地帯として残されてきたのが東南アジア地域の研究である。本報告は、東南アジアに建てられた神社について概観すると共に、とくに旧蘭領東印度に建てられた神社について詳しく見ていきたい。日本は東南アジアの広大な地域を短期間の内に支配下におさめるために、開戦前から、現地の支配機構を利用し、また風俗・習慣・宗教を尊重する立場を明らかにしていた。

こうした中で、1943 年 2 月、占領から 1 周年を記念してシンガポール・昭南島に南方地域の総鎮守として広大な昭南神社が設立されたが、他方、南方総軍は島の各地に別荘を建てて臨時所管の神社を建てるとも企及した。しかしながら、旧蘭印地域においてはジャバ島やランに鎮座する神社、スマトラ島メダンに鎮座する神社という宮内社系からの移転をもった巨大な神社が建てられた。また、この二つの神社が建てられた経緯について考察する。次に、旧蘭印においては、小さな社殿と鳥居からなる通称所管の神社も軍の駐屯地（管内神社）や進出した日本の企業（企業内神社）等に 20 社余りが建てられた。その実態を明らかにするとともに、これらの神社も単に日本人だけではなく、現地の多くの住民をも巻き込んで機能していたことを明らかにする。

【一般参加方法】
一般の方は Zoom での参加となります。
参加者は 9 月 14 日（水）までに申し込みフォームよりお申し込みください。後日 ID / PW を通知いたします。

Zoom 参加
申し込みフォーム
<https://forms.gle/4xyWUp8AzrV9g1G7>

神奈川大学 非文字資料研究センター
Email: nonp@shriku.ac.jp
Tel: 045-481-5661 (内線 3833)

研究会案内

用意されたレジュメは、中島氏が「二日間徹夜して（当日）、朝 8 時までかかった」と述べていたように、全 8 頁の本文のほか、表「東南アジアの神社（未完）」（全 5 頁）、「計画はあったが鎮座不明の神社（未完）」（全 2 頁）、そして出典一覧（全 12 頁）が付された非常に読み応えのあるものだった。レジュメの内容は、次の



報告者の中島三千男先生



会場の様子

ようになっている。

第1部 東南アジアに建てられた海外神社

I 研究史

II 東南アジアにおける海外神社設置の実態

III 南方総軍の神社政策

IV 鎮南神社と絃原神社

第2部 資料として^(註2)

【文献資料】、【聞き取り】、【新聞資料】、【ブログ】、【地図】

終わりに

また、付された資料は次のような内容になっていた。

(1) 表「東南アジアの神社 (未完)」

ベトナム・タイ・フィリピン (米領フィリピン)・ミャンマー (英領ビルマ)・マレーシア (英領マレー)・東マレーシア (英領北ボルネオ)・シンガポール (英領シンガポール)・英領インド帝国 (アンダマン・ニコバル島)・インドネシア (蘭領東印度) の計9地域の神社45社について、鎮座地・創建時期・祭神などが記され

ている (全5頁)。

(2) 表「計画はあったが鎮座不明の神社 (未完)」

ベトナム・フィリピン・ミャンマー・マレーシアのほか蘭領ジャワ島・蘭印ピンタン島・蘭印セレベス島の計7地域、神社10社について、神社名・鎮座予定地などが記されている (全2頁)。

(3) 出典一覧

全12頁にわたる出典一覧は、暁神社・長政神社・大義神社・比島神社・神明神社・ミントル稲荷神社・バヤパス (大和) 神社・櫃原神宮ダバオ礼拝所・南陸神社・共栄神社・吉備神社・(クワンタン) 神社・(吉祥院) 天満宮・天満宮社・南洋神社・ミリ神社・依岡神社・アピ神社・前田神社・昭南神社・新嘉坡大神宮 (昭南神社)・豊川稲荷大明神・鹿島神社・アンダマン神社・八達威神社・(藤本部隊) 鎮南神社・忠魂祠・報国神社・バンドン作戦記念館護国神社・三宝神社・豊秋津神社・根護呂神社・絃原神社など計45社について書籍や新聞記事などに記されており、膨大な出典一覧となっている。

以上が配布されたレジュメと資料内容である。報告はレジュメに沿って行われた。中島氏によると、東南アジア神社についての研究蓄積は少なく、これまでタイ国の長政神社、シンガポールの新嘉坡大神宮・昭南神社・豊川稲荷大明神宮、フィリピンのダバオ神社などわずかに7社が確認されていた程度であったが、その後の調査で計44社の存在が確認できたという。研究が進められてこなかった理由について、東南アジアは占領期間が他地域と異なり短い期間だったことや、「未公認神祠・無願神祠」の果たした役割を軽視していたことなどが挙げられていた。報告のまとめでは、建てられた神社に現地指導者の個性が出ていることや、神社創建が現地の状況的に危機感や不安感と安心感がバランスをとっている時期に創建が図られたのではないかということが述べられた。

2、質疑応答

ここでは中島氏の報告を受けて出された感想と質疑応答について、いくつか記しておきたい。

まず後田多氏から、いくつか新しい事実が確認されたことや宗教政策の違いが表れている点が興味深かったというコメントがあった。1930年代から40年代にかけての時代の変化や地域性 (場所) の問題が、具体的事実が掘り起こされていくことによって浮かび上がってきたという。今後、各地に建てられた神社について考察をする際に、各地域での政策を含めた日本との距離感なども考慮する必要があるという意見も出された。

次に、2017年にインドネシア調査に同行した津田氏から、調査当時に明らかになった状況からずいぶん変わってきたと感じたという感想が出された。津田氏による



と、当時はここまでわかると思っていなかったものが、地図や航空写真など、様々な資料を重ねていくことで、それが間違いないという確信に変わってきたのだという。前回の調査の時点で掘り出したままだったことを積み重ねてくれたとして、これまで研究を続けてきた中島氏を労うコメントがあった。

また、菅氏からは、神社の規模は国が建てているものだけではなく、小さなものも見ていかなければならないという中島氏の指摘について、全くその通りだと思ったという感想が出された。集団で参拝儀礼を行うことが、現地の宗教抑圧や儀礼参加の強要に繋がることから、神社は権力が発動する場にもなりうるものである。そこで、神社創建は誰がかわろうとしたのか、どの規模で建てられようとしたのかという計画の段階から神社が始まっていると考えることができる。そのため、建たなかった例も含めて考えていかなければならず、まだまだやらなければならないことがたくさんあると感じたという。

また、北海道と沖縄を中心に神社研究を行っている前田氏からは、神社創建に際し、現地の人びとの危機感や不安感など、どう思っていたのかという点について沖縄などとの比較の必要があると感じたというコメントがあった。

研究会は予定時間を少し超過して閉会したが、その後も会場では、研究班メンバーにより活発な議論が続けられ、地図上で神社の細かな位置などについても確認が行われた。



公開研究会閉会后、班員のみで議論が続いた

おわりに

海外神社班研究会では、班員それぞれの関心と研究分野から毎回新たな視点や論点が出されている。今回の中島氏による発表からも、祭神・政策・つくられた以外のもの（未完のもの）という新しい視点が出された。事実をひとつひとつ発掘すると、具体的に見えてくる世界があるのである。海外神社班では、これらをふまえて、今後も活発な研究活動を行っていきたい。

【注】

注1 蘭印の調査については、中島氏による調査報告（中島三千男「旧オランダ領東印度（現インドネシア共和国）に建てられた神社について」『非文字資料研究センター News Letter』No. 41、17-23頁、2019年）を参照されたい。

注2 筆者による加筆。